

スコアシート		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	W	G	S						
Q 建築物の環境品質・性能									3.4
Q-1 室内環境								0.40	3.4
1 音環境									3.1
1.1 騒音									
1.1.1 暗騒音レベル									
1.2 遮音									
1.2.1 開口部遮音性能									
1.2.2 界壁遮音性能									
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
2.1.1 室温設定									
2.1.2 外皮性能					W				
2.1.3 ソーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
3.1.1 昼光率									
3.1.2 方位別開口					W				
3.1.3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
3.2.1 昼光制御					W				
3.3 照度									
3.3.1 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
4.1.1 化学物質汚染									
4.2 換気									
4.2.1 換気量									
4.2.2 自然換気性能									
4.2.3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
4.3.1 CO ₂ の監視									
4.3.2 喫煙の制御									
Q-2 サービス性能									2.9
1 機能性									2.6
1.1 機能性・使いやすさ									
1.1.1 広さ・収納性									
1.1.2 高度情報通信設備対応									
1.1.3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1.2.1 広さ感・景観									
1.2.2 リフレッシュスペース									
1.2.3 内装計画									
2 耐用性・信頼性									3.0
2.1 耐震・免震									
2.1.1 耐震性									
2.1.2 免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔					W				
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					W				
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔					W				
2.2.4 主要設備機器の更新必要間隔					W				
2.3 適切な更新									
2.3.1 屋上・屋根、外壁仕上げ材の更新									
2.3.2 配管・配線材の更新									
2.3.3 主要設備機器の更新									
2.4 信頼性									
2.4.1 空調・換気設備									
2.4.2 給排水・衛生設備									
2.4.3 電気設備									
2.4.4 機械・配管支持方法									
2.4.5 通信・情報設備									

スコアシート		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	W	G	S							
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1 階高のゆとり										
2 空間の形状・自由さ										
3.2 荷重のゆとり										
3.3 設備の更新性										
1 空調配管の更新性										
2 給排水管の更新性										
3 電気配線の更新性										
4 通信配線の更新性										
5 設備機器の更新性										
6 バックアップスペースの確保										
Q-3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出										
I 1) 生物環境調査 1 I 2) 生物環境計画方針立案 1 II 1) イチョウ等の既存樹木の保存(移植) 1 II 2) 再生無し 0 II 3) 敷地内には無かった郷土種(高木)等で多様な植生を創出 1 III 1) 札幌市の基準を満たす 1 III 2) 建物緑化無し 0 IV 1) 支柱等で適切な緑地づくり 1 IV 2) 野生小動物への配慮し巣箱を設置予定 1 IV 3) 郷土種 プラタナス保存 2 V 1) 管理運用未定 0 V 2) 樹木の名板や外構ベンチ等を設置予定 1 合計10P レベル4										
2 まちなみ・景観への配慮										
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
1) 歴史的遺構など無し 0 2) 地域性材料無し 0 3) 集雪スペースを提供している 1 4) 施設提供無し 0 5) 1F食堂が全面ガラス貼りとし、外部にはカフェテラスにも利用可能な広域な芝広場を設けよう内部と連携させている 1 6) フェンス等は設けず可視性を高め防犯性に配慮 1 7) 学生の意見を設計に取り入れている 1 合計4P レベル4										
3.2 敷地内温熱環境の向上										
1) ①夏期卓越風東に対し妻面を配し風を導く 1 1) ②空き地率54.2%確保 1 2) ①水平投影面積率7.5% 0 2) ②緑被率 25.2% 1 2) ③舗装面積率 15.9% 1 3) ①道路に影響のある排気・排熱はない 1 3) ②排熱拡散防止のため空調室外機屋上配置や卓越風を配慮して排気口配置 1 合計6P レベル4										
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR-1 エネルギー										
1 建物の熱負荷抑制										
2 自然エネルギー利用										
2.1 自然エネルギーの直接利用										
2.2 自然エネルギーの変換利用										
3 設備システムの高効率化										
4 効率的運用										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR-2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水再利用										
1 雨水利用システム導入の有無										
2 雑排水再利用システム導入の有無										
2 低環境負荷材										
2.1 資源の再利用効率										
1 躯体材料の再利用効率										
2 非構造材料の再利用効率										
2.2 持続可能な森林から産出された木材										
2.3 有害物質を含まない材料										
2.4 既存建築躯体などの再利用										
2.5 部材の再利用可能性										
2.6 フロン・ハロンの回避										
1 消火剤										
2 断熱材										
3 冷媒										
LR-3 敷地外環境										
1 大気汚染防止										
2 騒音・振動・悪臭の防止										
2.1 騒音										
2.2 振動										
2.3 悪臭										
3 風害、日照障害の抑制										
3.1 風害の抑制										
3.2 日照障害の抑制										
4 光害の抑制										

スコアシート		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理							
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
5 温熱環境悪化の改善	W	G	S	1) ①夏期卓越風の把握 1 1) ②詳細な広域気象の把握 1 2) ①見附面積率52% 1 2) ②構模間隔104% 1 3) ①水平投影面積 4.6% 0 3) ②緑被率 25.2% 1 4) ①舗装面積率 15.9% 1 4) ②保水舗装面積率 0 5) ①屋根緑化 0 5) ②壁面緑化 0 6) ①雪室冷房 1 6) ②ショートサーキット抑制 1 7) ①風向きに対する配置、形状の検討 1 7) ②流体シミュレーションなし 0 計9P レベル4	4.0	0.30	-	-	4.0
6 地域インフラへの負荷抑制					4.2	0.30	-	-	4.2
6.1 雨水処理負荷抑制	W				3.0	0.30	-	-	
6.2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.10	-	-	
6.3 交通負荷抑制				1) 事前検討し適切な量の利便性の良い自転車置場を確保 1P 2) 特になし 3) 事前検討し適切な量の駐車場を確保 1P 4) 管理用荷捌き用スペース確保 1P 5) 車両進入口を分散しロータリー等を設け、渋滞緩和に配慮 1P 合計 4P	5.0	0.30	-	-	
6.4 廃棄物処理負荷	W		S	1) ごみの種類や量を推計し、ごみ置き場を計画 1P 2) 分別可能なごみ置き場を計画している 1P 3) 分別回収容器設置などは現状は未定 4) ごみ置場は屋根付の建物で飛散・カラス対策 1P 5) 有価物回収は現状の運用と同様に行う 1P 6) ごみ置場に空缶圧縮機の設置を計画 2P 7) 特になし 8) 専門業者に委託し、除排雪に配慮 1P 9) 入口エントランスにロードヒーティングを設置 1P 合計 8P	5.0	0.30	-	-	

■ LR-1 用途別得点表		学校	-	-	-	面積按分 総合スコア
		12,786 m ²	-	-	-	
1	建物の熱負荷抑制	5.0	-	-	-	5.0
3	設備システムの ERRIによる評価	4.0	-	-	-	4
	高効率化 個別設備による評価	-	-	-	-	
3.1	空調設備	3.0	-	-	-	-
3.2	換気設備	6.0	-	-	-	-
3.3	照明設備	6.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	-	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	-	-	-	-	-